

両性界面活性剤(グリシン系)**塩酸アルキルポリアミノエチルグリシン**

Alkylpolyamino ethylglycine hydrochloride

塩酸アルキルジアミノエチルグリシン

Alkyldiamino ethylglycine hydrochloride

致死量

ヒト推定致死量は 3g/kg (10%液 2L)。

副作用

接触皮膚炎: 病院薬剤師が、30%液を 10%弱に希釈する作業を行っていたが、両上肢、顔面、頸部に皮膚炎症状を認めた。

中毒症状

両性石鹼(Amphoteric soap)であり、皮膚粘膜の刺激作用が中心である。

経口の場合

消化管の刺激症状、悪心、嘔吐、腹痛、下痢。

眼に入った場合: 結膜炎。**治療****■経口の場合****1)呼吸・循環**

状態を観察し、必要に応じて輸液・酸素投与などを行う。

2)希釈

服用直後ならミルクまたは水を 200mL ほど飲ませて希釈する。

3)胃洗浄、活性炭、下剤

胃洗浄: 大量の生理食塩水で胃洗浄を行う。服用後短時間内のものに有効である。意識レベルの低下しているものには気管内挿管により気道を確保したうえで行う。意識のある場合は側臥位をとら

せ、吸引装置を用意し、肺への誤嚥を防止するようにする。洗浄液の 1 回注入量は 5 歳以上 150mL、5 歳以下 50~100mL とし、反復して胃洗浄を行う。

活性炭(粉末): 成人 30~100g、小児 15~30g (1~2g/kg)

を胃洗浄のあと、生理食塩水または D-ソルビトールとともに胃管より投与する。

下剤: 硫酸マグネシウムまたは硫酸ナトリウム(成人 20~30g/回、小児 250mg/kg/回)、あるいは D-ソルビトール(35%)(成人 1~2g/kg/回、1 歳以上の小児 1~1.5g/kg/回)を活性炭が排泄されるまで 4~6 時間ごとに投与する。イレウスや腸雑音の聴取しえないものには禁忌であり、幼児には 2 回/日以上投与しない。下痢による体液喪失に注意する。硫酸マグネシウム過量投与による高マグネシウム血症の報告があるので注意する。

■眼に入った場合

- 1) 室温程度の水で十分に洗眼する。
- 2) FAD 点眼液、FAD 眼軟膏、抗生物質点眼液などを投与する。刺激症状が続けば眼科医の治療を受ける。

使用上の注意**1.重要な基本的注意**

- (1) 原液または濃厚液との接触により刺激症状があらわれることがあるので、皮膚・粘膜に付着しないように注意すること。また、眼に入らないように注意すること。原液または濃厚液に接触した場合には直ちに水でよく洗い流し、適切な処置を行うこと。
- (2) 本剤は必ず希釈し、濃度に注意して使用すること。

(3)炎症または易刺激性の部位に使用する場合には、濃度に注意して、正常の部位に使用するよりも低濃度とすることが望しい。また、使用後は滅菌精製水で水洗すること。

(4)深い創傷に使用する希釈水溶液は、調製後滅菌処理すること。

2.副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

過敏症:発疹、そう痒感等の過敏症状(0.1～5%未満)があらわれることがあるので、このような場合には使用を中止すること。

3.臨床検査結果に及ぼす影響

本剤で消毒したカテーテルで採取した尿はスルホサリチル酸法による尿蛋白試験で偽陽性を示すことがある。

4.適用上の注意

(1)投与経路:外用にのみ使用すること。

(2)使用時:

- 1)粘膜、創傷面または炎症部位に長期間または広範囲に使用しないこと。
- 2)血清、膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している医療器具等に用いる場合は、十分に洗い落としてから使用すること。
- 3)石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、石けん分を洗い落としてから使用すること。
- 4)金属器具を長時間浸漬する必要がある場合は、腐蝕を防止するために0.1～0.5%の割合で亜硝酸ナトリウムを溶解すること。
- 5)繊維、布(綿、ガーゼ、ウール、レーヨン等)は本剤を吸着するので、これらを溶液に浸漬して用いる場合には、有効濃度以下とならないように注意すること。

6)皮膚消毒に使用する綿球、ガーゼ等は滅菌保存し、使用時に溶液に浸すこと。

参考文献

- 1)浦上芳達:両性界面活性剤(TEGO-51)による職業性皮膚炎について. 皮膚, 23;788,1981.